川の連携・明日への水

思川（おもいがわ）だより

南摩ダム予定地
（右後方は男体山）

発行所
水資源開発公団
思川開発建設所
☎028-622-8941

発行人兼編集人
柴田　安宏

謹んで初春のお慶びを申し上げます

所長　野口澄彦

新年あけましておめでとうございます。皆様方には日頃より思川開発事業の推進に、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、国から新たに示された事業実施方針に基づき事業を進める中、南摩ダム関係者の皆様方と生活再建に向けた補償契約を鋭意進めるとともに、西沢、上南摩の集団移転地造成工事を行って参りました。また、ダムサイト直下流の室瀬地区の皆様方には、８月に一部の方を除き、ダム容認への方針転換をご英断いただきました。今後とも、室瀬協議会の皆様方と話し合いをさせていただくことは勿論のこと、事業への理解が得られていない方に対しても、ご理解とご協力を得られるよう努めて参ります。

一方、南摩ダムの建設とともに思川開発事業の根幹をなす導水路、取水・放流工につきましては、先ず、取水・導水地区の皆様方の事業に対する不安を解消することが不可欠と考えております。そのためには、従前から河川水を利用されている皆様方にご迷惑をお掛けしないこと、黒川が水量不足の時に南摩ダムから貯留水を補給する効用について、引き続き地元の皆様方に説明を行って参ります。

今後とも、地権者の皆様をはじめ地元の関係団体、地域住民の皆様方、ユーザーや国民の皆様方、及び関係行政機関のご理解とご協力をお願い申し上げ新年のご挨拶といたします。

特別寄稿

思川開発事業による安全で安定した水源確保を

茨城県総和町長
菅谷　憲一郎

地球上のあらゆる生物の命の源である水の需要量が、年々増加の一途をたどる一方で、過剰な汲み上げによる地下水の減少や水資源に大きな影響を及ぼす地球規模の異常気象など憂慮すべき状況下にあり、安定した水資源確保の重要性が一段と高まっています。

当町では、昭和 30 年代の工業団地造成による企業誘致後、急激な人口増加並びに都市化の進展等を背景に、全町給水を目標とした水道事業の計画が策定されました。そこで、思川開発事業への参画を前提条件とした暫定水利権のもと、思川を水源として古河市・野木町・総和町の３市町共有の浄水場から昭和４９年より給水を開始しています。

以上の状況を踏まえ、思川下流の住民が安心して生活できるよう安全で安定した水源確保のため、一日も早い思川開発事業の完成を切望するとともに、「先祖伝来の故郷」から離れる苦渋の決断をなされた水没地域の方々には、心より感謝申し上げる次第であります。

更に、取水導水地域の方々の事業に対するご理解・ご協力を頂けますよう重ねてお願い申し上げます。

今後の事業にあたりましては、低迷する経済状況等を考慮した事業費の縮減及び自然環境と可能な限り共存を図りつつ実施されますよう希望いたします。

最後に、事業関係者方の工事期間中における安全をお祈り申し上げます。

おもいがわトピックス

☆事業の最新情報を皆様にお伝えします☆

黒川取水・導水地区の皆様に事業説明を行いました

板荷地区内の自治会説明会の様子

取水・導水地区の一つである黒川流域の板荷地区において、思川開発事業への一層のご理解とご協力をお願いするため、事業の目的や取水・導水の仕組み等について、説明会を開催いたしました。

10月15日から23日にかけて、板荷地区内の９つの自治会の皆様に説明を行い、延べ１３３名の方々の参加を頂きました。

また、11月１日には黒川取水対策協議会主催の全体集会（８６名出席）に事業説明の時間を頂戴し、板荷地区住民の方々に説明をさせて頂きました。さらに、都合によりされなかった方々へは11月13日から個別訪問により、説明をさせて頂きました。

説明会や個別訪問の際には、地域の皆様から様々なご質問や貴重なご意見を戴くことが出来ました。

今後は、大芦川流域の東大芦地区・西大芦地区、荒井川流域の加蘇地区も含め、引き続き事業説明会を開催するなどして、皆様のご理解・ご協力をお願いして参ります。

こんにちは！南摩の仲間たち

その④
チョウ目タテハチョウ科
オオムラサキ
Sasakiacharonda
撮影：平成15年1月16日
場所：粟沢地区
分布：北海道～九州

日本の国蝶であるオオムラサキは、エノキやエゾエノキなどのエノキ類を食植物にしています。

オオムラサキはエノキの枝木に卵を産み付け、幼虫はエノキの落葉の裏に隠れて越冬します。この時期にエノキの根元で落葉を調べると、オオムラサキ（写真中央）が越冬しているところを観察できます。また、同じエノキ類を食植物としているゴマダラチョウ（写真右下）も観察できるかもしれません。

越冬時には、時には強風により葉っぱごと遠くに吹き飛ばされてしまうこともあり、運良く根元に残った幼虫も寄生蜂による寄生や鳥類に捕食されたりして、成虫になるまでの生存率はかなり低くなります。

オオムラサキ成虫
写真提供：昆虫保存協会

オオムラサキは環境庁のレッドリストで準絶滅危惧に選定されており、食植物であるエノキ類と合わせて、専門家の指導・助言を得ながら適切に保全していきます。

編集後記

▼貴乃花関は、横綱史上４位となる成績を残し引退しました▼偉業の陰には数多の地道な稽古があったことでしょう▼努力によってその生まれ持った実力を引き上げ、横綱の地位を確立してこれを守ったのです▼河川も降雨や地形の特徴からそれぞれ実力が備わっており、実力を上回る人口や産業を支えることはできません▼これまでに人は、河川の実力を高めるために溜め池を造ったり、用水を導いて土地を切り開いてきました▼「川を治める者が国を治める」人間は長い歴史の中で、ありとあらゆる英知を注ぎ込んで河川と付き合ってきました▼思川開発事業は、豊水時の余剰水を南摩ダムに蓄え、必要なときに活用することによって川の実力を高め、流域の皆様の生活の安定・経済の発展に寄与します。

この用紙は再生紙を使用しています